

# 東京ディズニーリゾートの非正規雇用問題

——ミッキーマウスに偽装請負の疑いがあった——

## Temporary Employment Problems of Tokyo Disney Resort : Mickey Mouse is a Camouflage Contract Labor?

中 島 恵\*

NAKAJIMA Megumi

Tokyo Disney Resort (TDR) looks brilliant. However, only Oriental Land Corporation's full time workers are permanently employed. Others are temporary workers. But they work for TDR. TDR's part timers are called 'cast' and well known as high quality workers. Casts are directly employed by Oriental Land, but performers such as Mickey Mouse are indirectly employed. Performers were doubted to be employed as camouflage contract labors. TDR's temporary workers newly formed an informal labor union, 'Oriental Land Union'. Oriental Land's formal union is obedient and quiet.

キーワード：東京ディズニーリゾート (Tokyo Disney Resort)、オリエンタルランド (Oriental Land Corporation)、非正規雇用 (Temporary Employment)、偽装請負 (Camouflage Labor Contract)

### 1. はじめに

世界初のディズニーランドは1955年にアメリカ・カリフォルニア州アナハイムに開業された。これは生前のウォルト・ディズニーが人生を賭けて芸術的アイデアを具現化した最高傑作であった。ウォルト・ディズニーは映画監督・映画プロデューサーであったため、舞台上と舞台裏の明確な区別をつけるようにした。顧客の目に見えるところを「オンステージ」、顧客の目に見えないところを「バックステージ」と呼ぶ。バックステージを見せないため経営努力を感じさせず、魔法で利益を上げているイメージの企業となった。しかしそのような魔法は無い。生きた人間が試行錯誤しながらここまで育ててきた。

東京ディズニーランド (TDL) は1983年4月に開業し、大成功を収めた。しかしテーマパーク産業は常時追

加投資が必要な過酷な産業である。東京ディズニーリゾート (TDR) は自然に成功したと思う人が多いが、毎年巨額の投資をするために苦勞して資金を捻出している。その甲斐あって、世界屈指のテーマパークとなった(表2)。そのせいか人件費が売上高の割に潤沢でないようである(後述)。

「ディズニー・マジック」とは生前ウォルト・ディズニーが好んで使った言葉である。「夢と魔法の王国」と形容されるディズニーランドであるが、華やかな世界ほど舞台裏は地味で過酷である。2014年6月、TDRを華やかに彩るミッキーマウス等のパフォーマーに偽装請負の疑いがあると報道された(後述)。

本稿では、東京ディズニーリゾートの非正規雇用問題を考察する。

\*東京経営短期大学

## 2. 世界のテーマパーク市場における TDR

米ウォルト・ディズニー社（以降、ディズニー社）のテーマパーク、ディズニーランドは世界のテーマパーク市場を席巻している。表1は2014年世界主要10テーマパークグループの入場者数の合計である。1位のウォルト・ディズニー・アトラクションズはディズニー社の子会社でテーマパーク部門を担当する企業である。2位のマーリン・エンターテインメント・グループはレゴランドなど中小のテーマパークをヨーロッパ中心に経営している。3位のユニバーサル・スタジオ・レクリエーション・グループは世界のユニバーサル・スタジオを経営するコムキャスト NBC ユニバーサル社のテーマパーク部門である。世界のディズニーランドは、年間入場者数で2位のマーリンの2倍以上、3位のユニバーサル・スタジオの3.5倍程度である。ここ数年で中国の新興テーマパークグループがトップ10入りを果たした。中国ではテーマパークの開園ラッシュが起こっている。ここで粗製濫造されるはずなので、数年後、実力あるテーマパークだけが生き残るだろう。

表2は世界のテーマパーク入場数ランキングである。2011年と2014年のランキングで若干変動はあるものの、上位4位はほぼ変わらない。1位はフロリダ州オー

ランドのディズニーワールドのマジックキングダム、2位はカリフォルニア州アナハイムのディズニーランドか東京ディズニーランド、4位が東京ディズニーシーである。上位10位のうち8がディズニーのテーマパークである。6位のエプコットはフロリダ州ディズニーワールドの第2パークである。ディズニーランド圧勝の中にユニバーサル・スタジオが食い込んできている。それ以外に日本勢と韓国勢が入っている。三重県のナガシマスパーランドが世界で17位と奮闘している。韓国もテーマパーク好きの国民性である。11位のロッテワールドはロッテグループのテーマパーク部門、13位のサムスン・エバーランドはサムスングループのテーマパーク部門である。

## 3. オリエンタルランドの概要および総投資額

### (1) オリエンタルランドの概要

株式会社オリエンタルランドは1960年設立、千葉県浦安市舞浜に本社を置く。代表取締役社長（兼）COO、上西京一郎氏、資本金約632億円、取締役9名、監査役4名、執行役員19名、正社員2,229名、テーマパーク社員820名、準社員18,706名、事業内容テーマパーク経営・運営、不動産賃貸等、主要取引銀行、みずほ銀行、三井住友信託銀行、業務提携先、ディズニー・エン

表1 2014年世界主要10テーマパークグループの入場者数（単位：人）

	企業グループ	本社所在地	主要パーク	入場者数
1	ウォルト・ディズニー・アトラクションズ	米カリフォルニア州バーバーク	世界のディズニーランド	134,330,000
2	マーリン・エンターテインメント・グループ	英プール	レゴランドなど欧州中心に中小テーマパーク多数	62,800,000
3	ユニバーサル・スタジオ・レクリエーション・グループ	米フロリダ州オーランド	世界のユニバーサル・スタジオ	40,152,000
4	OCT パークス・チャイナ（華僑城）	中国・深圳	都市開発とテーマパーク	27,990,000
5	シックス・フラッグズ・エンターテインメント	米テキサス州グランドプレーリー	絶叫マシン系パーク多数	25,638,000
6	セダー・フェア・エンターテインメント・グループ	米オハイオ州サンダスキー	ナッツベリーファーム等米国に中小パーク多数	23,305,000
7	シーワールド パークス&エンターテインメント	米フロリダ州オーランド	米国の海のテーマパーク	22,399,000
8	パークス・リュニダス	西マドリッド	欧米に中小パーク多数	22,206,000
9	Chimilong Group（長隆集団）	中国・広州	中国で観光開発	18,659,000
10	SongCheng（宋城）Worldwide	中国・杭州	中国で文化、演劇、観光、ショービジネスなど	14,560,000
	合計			392,039,000

出典：2014年「Theme Index: Global Attraction Attendance Report<sup>1)</sup>」p.9の表に加筆修正  
 発行者：Themed Entertainment Association（TEA）

表 2 2011 年および 2014 年世界トップ 20 テーマパーク (単位: 人)

	テーマパーク	立地	備考	2011 年入場者数	2014 年入場者数
1	マジックキングダム	米フロリダ州レイクブエナビスタ	ウォルト・ディズニー・ワールド第 1 パーク	17,142,000	①19,332,000
2	ディズニーランド	米カリフォルニア州アナハイム	世界初のディズニーランド	16,140,000	③16,769,000
3	東京ディズニーランド	日本・千葉		13,996,000	②17,300,000
4	東京ディズニーシー	日本・千葉		11,930,000	④14,100,000
5	ディズニーランド・パリ	仏マヌル・ラ・ヴァレ	パリ第 1 パーク	10,990,000	⑨9,940,000
6	エプコット	米フロリダ州レイクブエナビスタ	ウォルト・ディズニー・ワールド第 2 パーク	10,825,000	⑥11,454,000
7	ディズニー・アニマルキングダム	米フロリダ州レイクブエナビスタ	ウォルト・ディズニー・ワールド第 4 パーク	9,783,000	⑦10,402,000
8	ディズニー・ハリウッド・スタジオ	米フロリダ州レイクブエナビスタ	ウォルト・ディズニー・ワールド第 3 パーク	9,699,000	⑧10,312,000
9	ユニバーサル・スタジオ・ジャパン	日本・大阪	米コムキャスト NBC ユニバーサルに買収された	8,500,000	⑤11,800,000
10	アイランド・オブ・アドベンチャー	米フロリダ州オーランド	ユニバーサル・オーランド第 2 パーク	7,674,000	⑪8,141,000
11	ロッテワールド	韓国ソウル	ロッテグループ	7,580,000	⑭7,606,000
12	香港海洋公園	香港	香港 1 の人気パーク	6,955,000	⑬7,792,000
13	サムスン・エバーランド	韓国京畿道	サムスングループ	6,570,000	⑯7,381,000
14	ディズニー・カリフォルニア・アドベンチャー	米カリフォルニア州アナハイム	アナハイム第 2 パーク	6,341,000	⑩8,769,000
15	ユニバーサル・スタジオ・フロリダ	米フロリダ州オーランド	ユニバーサル・オーランド第 1 パーク	6,044,000	⑪8,263,000
16	香港ディズニーランド	香港	香港 2 位の人気パーク	5,900,000	⑮7,500,000
17	ナガシマスパーランド	日本・三重	絶叫マシンで集客	5,820,000	⑰5,630,000
18	シーワールド・フロリダ	米フロリダ州オーランド		5,202,000	⑳4,683,000
19	ユニバーサル・スタジオ・ハリウッド	米カリフォルニア州ユニバーサルシティ	世界初のユニバーサル・スタジオ	5,141,000	⑰6,824,000
20	ウォルト・ディズニー・スタジオ	仏マヌル・ラ・ヴァレ	パリ第 2 パーク	4,710,000	㉑4,260,000

出典：2011 年「Theme Index: Global Attraction Attendance Report<sup>2)</sup>」の pp.12-13 の表に加筆

2014 年「Theme Index: Global Attraction Attendance Report<sup>3)</sup>」の pp.12-13 の表に加筆

\*この表の左端の数値は 2011 年のランキングである。

\*2014 年入場者数の数字の前の○内の数値は、2014 年の順位である。

タプライゼズ・インク、大株主は京成電鉄、三井不動産、千葉県等である。2015 年 3 月期の売上高約 4,662 億円、営業利益約 1,106 億円、経常利益約 1,104 億円、当期純利益約 720 億円、連結子会社 16 社 (2015 年 9 月 1 日現在)、東京証券取引所一部上場である<sup>4)</sup>。

このようにサービス業には利益率の高い優良企業である。人気就職先ランキングでオリエンタルランドは常時上位にくる。しかし東証一部上場企業であり、高業績を維持する人気企業なので、正規雇用は激戦である。

オリエンタルランドの正社員は 2,196 名、平均年齢

43.9 歳、平均勤続年数 19.9 年、平均年間給与 7,797,851 円である<sup>5)</sup>。平均年齢 40 歳前後、平均勤続年数 20 年前後、平均年間給与 780 万円程度なので、標準的な東証一部上場企業と言える。この給与水準を常時 2,000 人以上に定年まで保証し、社会保険、福利厚生、退職金なども支払うため、正社員雇用がためらわれるのだろう。

## (2) オリエンタルランドの総投資額

1983 年の TDL 開業以降、オリエンタルランドはアトラクション・パレード・ショーなどの追加で TDR の

表3 オリエンタルランドのセグメント別設備投資額

事業	2012年	2013年	2014年	2015年
テーマパーク事業	220.09 億円	264.96 億円	169.18 億円	338.62 億円
ホテル事業	6.40 億円	10.56 億円	21.32 億円	15.31 億円
リテイル事業	-	-	-	-
その他の事業	5.63 億円	11.95 億円	13.26 億円	16.51 億円
消去又は全社	(300 万円)	(1800 万円)	(1000 万円)	(1100 万円)
合計	232.09 億円	287.29 億円	203.66 億円	370.34 億円

出典：オリエンタルランド HP「業績データ推移」2016年3月28日アクセス <http://www.olc.co.jp/ir/data.html>

価値が上がったという理由で数百円の値上げを繰り返してきた。2016年3月まで大人1日6,900円<sup>6)</sup>であったが、2016年4月1日から7,400円に値上げされた<sup>7)</sup>。一人でTDRに行く人は少ないだろう。二人で行ったとしても入場料金だけで14,800円、そこに飲食と物品販売、交通費は別途かかる。2014年のTDRの来場者の顧客単価は10,955円である<sup>8)</sup>。若年の顧客が多いことから、一日のレジャーにかける金額としては高額である。バブル崩壊後に就職した世代以降の貧困問題が指摘されている。2000年代は「若年非正規雇用」「若年貧困問題」などと若年層の非正規雇用に伴う貧困が問題視された。その層は2016年現在40歳代である。30歳代以下でも同様に契約社員、派遣社員、臨時社員など様々な非正規雇用者の比率が高まっている。2000年代に若年雇用問題が浮上したが、2010年代になって中年雇用問題・中年貧困問題が浮上している。このまま日本人の平均所得が下がり続けると、この価格のテーマパークに通える人は減少の一途をたどる。この価格であれば、オリエンタルランドは自分で自分の首を絞めることになるだろう。

オリエンタルランドは値上げのたびにTDRの価値が上がったからと説明している。TDRは具体的に年間いくら投資投資しているか。オリエンタルランドは①テーマパーク事業、②ホテル事業、③リテイル事業、④その他の事業（ショッピングセンター、モノレール等）の4つの事業を有する。2012年から2015年までの4年間の投資額を見てみよう（表3）。最も安い2010年で約194億円、それ以降は200億円台、2015年には370億円の投資をしている。その大半をテーマパーク事業にかけている。オリエンタルランドはHPで、TDL建設以来の累計投資額は1兆3,000億円（TDR各施設開業時の初期投資が7,000億円、追加投資が6,000億円）に及ぶと公表している<sup>9)</sup>。

表4 USJのアトラクション等の大型投資

オープン	投資対象	金額
2001年3月	USJ開業	約1,800億円
2004年1月	スパイダーマン・ザ・ライド	約140億円
2006年4月	ピーターパンのネバーランド	非公表
2007年3月	ハリウッド・ドリーム・ザ・ライド	約50億円
2007年7月	マジカル・オズ・ゴーラウンド	約2億円
2008年3月	ファンタスティック・ワールド	約16億円
2009年3月	夜間パレード	約30億円
2010年3月	スペース・ファンタジー・ザ・ライド	約50億円
2012年3月	ユニバーサル・ワンダーランド	非公表
2014年後半	ハリーポッター	約450億円
2020年	任天堂「スーパーマリオ」	約400億円

出典：次の資料を元に作成。

- ・2013/01/09 日本経済新聞 朝刊 11頁「これからのテーマパーク（中）ユニバーサル・スタジオ・ジャパン。」
- ・2007/04/10 日本経済新聞 地方経済面 兵庫 46頁「USJにメリーゴーラウンド、7月開業－幼児も利用OK、家族連れに対応。」
- ・2009/03/18 日経産業新聞 18頁「夜間パレード導入2週間、USJ、地元客取り戻す－全国規模の集客課題。」
- ・産経WEST「USJ、マリオに400億円 任天堂との新アトラクションは正面ゲート左側に（2016/3/05）」2016年3月28日アクセス <http://www.sankei.com/west/news/160305/wst1603050022-n1.html>

TDL開業は1983年なので2016年は33年目である。1兆3,000億円を33年で割ると約394億円である。TDL開業時の初期投資額が約1,800億円、TDS開業時の初期投資額は3,350億円、2014年から2023年の10年間でテーマパーク事業に5,000億円投資する計画である<sup>10)</sup>。

参考までに、USJは2001年3月オープンで、初期投資額約1,800億円であった（表4）。「初年度バブル」で年間1,000万人を超えたが、「2年目のジンクス」で

2年目に大幅に低下し、その後も入場者数を減らした。2004年に大型投資となる新アトラクション「スパイダーマン」を140億円で導入した。その後もTDRに比べると低額ではあるが投資を続けてきた。巨額投資となったのは2014年開業のハリーマンで、450億円である。そして東京オリピックの2020年に間に合うように任天堂のスーパーマリオのアトラクションを400億円で新設すると発表した。なお、USJを経営する(株)ユー・エス・ジェイは非上場企業なので売上高すら発表していない。過去の新聞記事から拾ってこれだけ集めた。USJの研究がほとんど無いのは(株)ユー・エス・ジェイが全く情報公開しない企業だからである。

#### 4. オリエンタルランドの非正規雇用問題

##### (1) アルバイトの社会保険未加入発覚

高業績のTDRであるが、オリエンタルランドの非正規雇用問題が最初に表出したのは2000年である。

2000年8月、オリエンタルランドがアルバイトのうち約1,600人の厚生年金の加入手続きを怠っていたと船橋社会保険事務所から指摘され、過去にさかのぼって保険料支払いを求められていると報道された。未納入の本人負担分は、健康保険料も含め合計約2億1,000万円で、雇用期間などに応じて、一人数万円から最高80万円になると同社は説明した。当時約1万2,000人のアルバイトのうち厚生年金加入者は約2,000人であった。しかし、2000年6月から7月にかけて社会保険事務所が、「月17日、112時間以上の雇用が2カ月間継続していた場合」を厚生年金加入基準として勤務実態を調べた結果、1,608人の加入漏れが指摘された。同社は、アルバイトの社会保険の加入基準が、勤務日数、勤務時間が正社員の四分の三以上とされることから、「月16日、週28時間以上継続する場合」をめどとして加入手続きをしていた。同社は、指摘された全員を最長2年までさかのぼって厚生年金に加入、同月末までに会社負担分以外の本人負担分も立て替えて納入するとした<sup>11)</sup>。

##### (2) ダンサー労災認定問題

2007年にダンサー労災認定問題が報道された。TDRのパレードに参加していたダンサーが怪我をしたものの、業者を間に挟んだ業務請負契約だったことから、オリエンタルランドは「ダンサーとは雇用契約を締結しているわけではない」と主張したが、勤務実態から「労働者性」が認められ、業務上労災と認定されるに至った。

その後、オリエンタルランドもダンサーなど数百人のパフォーマーに関して業務請負契約から直接雇用へ移行した<sup>12)</sup>。

##### (3) パフォーマーの派遣切り、偽装請負の疑い

2014年6月、オリエンタルランドはショーのリニューアルに伴う派遣切りを行った。レギュラーショーおよびスペシャルイベントに、それぞれ7~17年間にわたりパフォーマーとして派遣契約で出演してきた出演者たちが、「ショーをリニューアルオープンする」という名目で同年3月末での解雇を通告された。出演者たちは「このままでは夢の場がブラック化しかねない」として、オリエンタルランドに直接雇用を求め、オリエンタルランド・ユニオンを結成した。オリエンタルランド・ユニオンは同年3月にオリエンタルランドに対し、団体交渉の開催を求めたが、オリエンタルランドは請負業者と請負契約を結んでいる「注文主」にすぎず、雇用契約も指揮命令関係もなければ労務管理にも関与していないので「使用者」ではないという理由で団体交渉を拒否した。しかし「ショー出演者の一日は、出勤から退勤までの間『準備・ショー出演・待機』の繰り返しだが、この間の指揮命令のほとんどをオリエンタルランドのステージマネージャーから受けていた」「オリエンタルランドが技術指導を行っている。オリエンタルランドが用意した台本、振り付け通りにやらなければ注意されます。ショーの出演者に裁量権はなく、アドリブは原則禁止だった」「リハーサル後に、オリエンタルランドがリハーサル参加者の中から出演可能者を選別していた」といった事実から、同年4月28日にオリエンタルランド・ユニオンの組合員は、オリエンタルランドにおける就業実態は「偽装請負」で職業安定法44条に抵触しているのではないかと東京労働局に申告した。これまでも出演者や従業員(キャスト)の使い捨て問題が報道されたことはあったが、当事者が声を上げるのは異例のことであった。パフォーマーによると「ショーの出演時間は1日5時間45分となっている。しかし、出演と出演の間の時間があるから、拘束時間はもっと長い。でもその時間は休憩時間とされて、賃金が支払われない。出演者に何かあったときのために待機している時間なのに、賃金の対象でないとされている」「契約時に約束した労働時間と実際の労働時間が違いすぎる。そのため、生活設計ができない」「シフトは6時間なのに、2時間で帰された。オープン準備したが、『客いないので帰って』と言われた」<sup>13)</sup>。

ダンサー労災認定問題では、TDRのパレードに参加していたダンサーが怪我をしたものの、業者を間に挟んだ業務請負契約だったことから、オリエンタルランドは「ダンサーとは雇用契約を締結しているわけではない」と主張したが、勤務実態から労働者性が認められ、業務上労災と認定されるに至った。オリエンタルランドはダンサーなどの数百人のパフォーマーに関して業務請負契約から直接雇用へ移行するものと見られたが、現実にはパフォーマーの多くは、業務請負契約が続いた。「2007年に問題視されたダンサー部門の一部はその後、オリエンタルランドの直接雇用となりましたが、いまだに多くのパフォーマーはオリエンタルランドと業務請負契約をした中間業者と1年更新で業務請負契約を結ばざるを得ない不安定な状態にあります。それぞれが個人事業主で健康保険も自分で加入し、雇用保険も労災保険も適用対象外となっている人もいます」（オリエンタルランド・ユニオン）。同ユニオンによれば、オリエンタルランドはパレードやショー運営に関して、複数の中間業者と業務請負契約を結び、その中間業者がアルバイト情報誌などで人材を募集し、オリエンタルランドはその人材の中から選別し、パフォーマーとして教育してきた。「請負といいながら、オリエンタルランドが時間管理や技術指導を行っている。オリエンタルランドが用意した台本、振り付け通りにやらなければ注意されます。ショーの出演者に裁量権はなく、アドリブは原則禁止だった」（同ユニオン）ために、オリエンタルランドにおける就業実態は事実上の派遣形態をとっており、偽装請負として職業安定法44条に抵触している可能性も高まった。同ユニオンは同年4月末に東京労働局に申告した。オリエンタルランドは、請負業者と請負契約を結んでいる「注文主」の立場にすぎず、雇用契約も指揮命令関係もなければ、労務管理にも関与していないので「使用者」ではないという理由で同ユニオンの団体交渉を拒否した。「オリエンタルランドは、これまでも見てみぬふりを続けてきました。最小限の人数で回すことを余儀なくされた現場はブラック企業化し、疲弊しています。疲弊しているうえにパフォーマーは怪我をしても自己責任で、『怪我をして動けないのなら仕事を辞める』『妊娠したら仕事を辞める』などと中間会社から言われ、泣き寝入りして辞めていく人が多い。オリエンタルランドに直接相談しようものなら、契約先の中間会社の社長から『俺の顔をつぶす気か』と恫喝する電話がかかってきた人もいます。最近は景気がよくなったためにアルバイト応募者も減ってきており、ますます現場は苦しくなっている」

(同ユニオン)。同ユニオンはTDR全体の労働環境の改善も要望している。「多くの準社員（アルバイト）も条件は悪い。その契約書には労働日、労働時間が明記されておらず、労働日の2週間前にシフトが通知されるフリーシフトになっています。これはオリエンタルランドにとって都合のいい契約で、客の混雑具合や人件費予算を勘案して、人員を手配・配置できるのです。当然ながら、これでは働く側にとってはたまりません。直接雇用されている準社員からもコスト削減最優先のために『契約時に約束した労働時間と実際の労働時間が違いすぎる。そのため、生活設計ができない』などの相談が寄せられています」（同ユニオン）。オリエンタルランドはコストカット重視で、ここ数年はエンターテインメント関係を中心に製作費が大きく削られている。オリエンタルランドの財務諸表を見ても唯一大きく削減されているのは売上原価、なかでも、「エンターテインメント・ショー製作費」である。同製作費が最も多かったのが2009年3月期で154億円であった。ところが、最新の2014年3月期では55億円と、ほぼ3分の1にまで削減されている。米ディズニー社に支払うロイヤリティーが221億円から271億円と2割増であるのと比べても、大幅に減っていることがわかる。こうしたコストカットが労働環境を悪化させ、ひいてはパフォーマンスに悪影響が出る。「パレードやパフォーマンスも、かつてと比べると配置される人数が激減しています。ディズニーファンからすれば明らかに魅力が落ちており、不満の声も出てきているほどです。オリエンタルランドにとっては、話題の新しい映像ショー（キャスルプロジェクション）はパレードなどと比べて人件費を大幅に削減できることも魅力なのでしょう」（同ユニオン）<sup>14)</sup>。

ここから推測すると、オリエンタルランド正社員の給与・賞与は人件費から出ているが、派遣や請負労働者の給与は「エンターテインメント・ショー制作費」から支払われるようである。

## 5. 非正規労組「オリエンタルランド・ユニオン」結成

2014年2月3日、新しい非正規労働組合が結成された。組合名はオリエンタルランド・ユニオンである。同ユニオンはTwitterアカウントを持っている（Twitterアカウント：@OlcUnion）。そのトップページには、「オリエンタルランド・ユニオンはオリエンタルランドで働く人ならば、雇用形態（パート、派遣、個人事業主など）関係なく、加入できる労働組合です。」とある。

トップ画面に次の紹介文が添付されている。

### (1) オリエンタルランド・ユニオンの呼びかけ

(原文のまま掲載<sup>15)</sup>)

オリエンタルランド・ユニオンは、2014年2月3日、請負業者と雇用契約を結びオリエンタルランド(OLC)のショーに出演していたパフォーマーが雇い止め=解雇されたことを機に結成しました。

OLCが「ショーのリニューアルオープン」を理由としパフォーマーを解雇したことに対し、OLCにおける「偽装請負」の実態を告発し、OLCに直接雇用を求め団体交渉を求めました。しかし、OLCは、請負業者と請負契約を結んでいる「注文主」であって、ショーに出演していた組合員との間に雇用契約はなく、指揮命令関係もなく、就業時間や休憩時間の設定をはじめとする労務管理に関与していないので、『使用者』ではないという理由で、団体交渉を拒否したので、東京都労働員会に不当労働行為の申立をしました。

ユニオンは、「夢と魔法の国」で何が起きているかを知らしめ、問題解決へのご支援・ご協力を求め、2014年3月19日から月(舞浜駅近くの交差点)・金(本社前)の朝、宣伝・要請行動に取り組みました。12月19日~25日の間は、全日建連帯労働組合の支援を受けて、毎朝、宣伝カーを使つての宣伝活動に取り組みました。

2014年6月27日の株主総会でも宣伝をし、「チラシをみた。早期の問題解決を」と株主二人が発言してくれました。市川・浦安地域の労働組合OBや市民活動に関わっている方々の毎週月曜日の宣伝活動への参加など、支援の輪は広がりました。雑誌やユーチューブなどでもたくさん取り上げていただきました。

多くの方々のご支援を受けて、パフォーマーの解雇問題は、2015年8月に解決しました。

現在、ユニオンにはOLCと雇用契約を結び働くキャスト(パート・アルバイト)や出演者の方々も組合に加入し、労働条件の問題について改善・解決を図っています。

(1) 毎月・毎日定まらない不安定な就業時間、(2) 有給休暇(突発休)の取得、(3) 6時間以上働くときの休憩取得、などを交渉で改善しました。

また、キャストのパワハラによる解雇、25年間働き続けた出演者の解雇も交渉で改善・解決を図りました。

15春闘では、OLC初の非正規春闘に取り組みました。ゼロ回答でしたが、要求をつくる過程で組合員以外の方々からも意見を聞き、要求に反映できました。

オリエンタルランド・ユニオンのたたかいは、今も続いています。

OLCの経営状況は右肩上がりです。純利益は2011年から急激に増加しています。2010年の純利益は229億、利益率6.4%、2015年の純利益は720億、利益率は15.5%です。しかし、その間、2万人いる非正規雇用者の時給は1円も上がっていません。予算削減により、ショーやパレードの規模は小さくなり、アトラクションだけでなく、トイレやレストランにも行列ができ、地べたに座り込んで食べるお客さん。夢の国とはかけ離れた状態になっています。

オリエンタルランド・ユニオンのモットーは、「キャストを使い捨てるな!ゲストの夢を守りたい!」です。

OLCで働くキャスト・出演者などの皆様!

誰からの相談も受けます!いつでも相談にのります!一緒に声をあげましょう!

### (2) オリエンタルランド・ユニオンの主張内容

上記をまとめると次のようになる。2014年にショーのダンサーが解雇されたことをきっかけに同ユニオンは結成された。同ユニオンによるとパフォーマーは偽装請負の疑いがある。偽装請負は法律で禁止されている。オリエンタルランドに団体交渉を申し込んだが、使用者ではないという理由で拒否された。そこで東京都労働員会に不当労働行為の申立をした。同ユニオンは2015年春闘でオリエンタルランド初の非正規春闘を行い、ゼロ回答であった。同組合は活発に活動している。ゼロ回答とは、昇給がゼロ、つまり給料が上がらないとオリエンタルランドが回答したという意味である。

オリエンタルランドのおとなしく従順な御用組合は「オフス:OFS:Oriental Land Friendship Society:オリエンタルランド・フレンドシップ・ソサイエティ」という。この御用組合がオリエンタルランドの正規社員の労働組合である。この名前を付けるということは、オリエンタルランドと労働組合はお友達という意味なのだろう。

2014年のオリエンタルランドの有価証券報告書(6頁)の「(3)労働組合の状況」によると、「2014年3月31日現在の組合員数は2,500人で、UAゼンセン同盟に加盟しております。なお、連結子会社(一部連結子会社を除く)につきましては現在労働組合は組成されておられません。労使関係は円満に推移しており、特記すべき事項はありません。」と書いてある<sup>16)</sup>。確かに、正

規社員の労働組合 OFS とは円満のようである。

## 6. パフォーマー正規雇用でパフォーマー数減少

2013年になると別の問題が起きた。

請負労働者であったパフォーマー達が正規雇用された。具体的には、オリエンタルランドはパフォーマーを人材子会社の社員とした。その子会社を吸収合併したので人件費が増加した。そのせいと断定できないが、パレードでのパフォーマー数が減少した。周年イベント時のキャラクター数とダンサー数を比較したところ、2003年の20周年イベントではキャラクター50人、ダンサー120人だったのに対して、2013年の30周年イベントではキャラクター55人、ダンサー72人と0.6倍に減っている。キャラクター数は若干増えているが、ダンサーは減っている（週刊ダイヤモンド、2014、39頁）。

キャラクターとはミッキーマウス等のぬいぐるみの中に入っている人で、ダンサーとは人間の姿のまま踊る人である。オリエンタルランドのショー開発部オーディション係でキャラクターとダンサーを募集している。2016年4月21日現在、同年5月15日締め切りで、ジャズ・バレエ（男女共通）、ヒップホップ・ジャズ他（男性のみ）を募集している。1次審査はダンス審査、2次審査はダンス審査・体力測定、3次審査は面接である。オーディションには東京会場と大阪会場がある<sup>17)</sup>。

キャラクターやダンサーの人件費が上がると、人数を減らすしかないようである。原資（人件費の総額）は同じなのでトレードオフである。これは推測であるが、カラフルなLEDの電極をたくさん着けて、パレードを大きく膨らませているのではないか。LED価格はだいぶ低下したことと、人間と違って正規雇用や社会保険を必要としないこと、今後の需要が読めないのに終身雇用が必要ないこと、など複数の理由が考えられる。

さらに悪いことに、2014年5月から夜のショーとしてシンデレラ城に映し出すプロジェクションマッピング「ワンス・アポン・ア・タイム」が導入された。プロジェクションマッピングとは映像と音声を見せるショーである。その制作費は約20億円である。この制作費はパフォーマーの正規雇用何人分であろうか。オリエンタルランドの弱みは、追加投資額が莫大で売上や利益を吹き飛ばすことである。そのため売上高のわりに人件費が潤沢でないようである。

## 7. 発見事項と考察

ここまで考察してきて次の点を発見した。

第1に、パフォーマーを正社員化したらパフォーマー数が減らされた。原資は同額である。今後労働問題に関心ある非正規労働者が増え、労働組合を結成し、労働基準監督署に通報するなど、以前なら無かった非正規労働者の先鋭化が進むだろう。そして一部の幸運な人だけが正社員化され、大多数の人は非正規のまま、しかも人数を減らして運営されるようになるだろう。今後この傾向がより強くなるだろう。非正規労働者の先鋭化のジレンマである。オリエンタルランドは華やかなLED電極を増やしたり、人によるパレードでなくプロジェクションマッピングなど映像のショーにするなど、別の手段を考えるようになるだろう。

第2に、テーマパーク事業は巨額の追加投資を常時必要とする過酷な事業である。利益が出たら人件費に使うのではなく、追加投資に使う。他の製造業と同様である。テーマパーク産業は観光産業やサービス産業に属するが、装置産業でもある。発電所やNTTのような通信業と同様である。テーマパークの乗り物は工場のライン（ベルトコンベア）と同じで、毎日一日中稼働している。同じスピードで安定している必要があり、メンテナンスコストが必要である。売上の多くをメンテナンスや追加投資に回す必要がある。

第3に、オリエンタルランドは一般的な大企業と同じで、正社員になるのは激戦である。しかしアルバイトとしては雇用はされやすい。それで正社員化を期待する、正社員を目指してよく働く、というメカニズムが生じているだろう。オリエンタルランドはこれを期待していなかったであろうが、たまたまアルバイトの動機付けとアルバイトから正社員登用という雇用システムがバブル崩壊後の日本のサービス産業に自然発生的にできあがっていた。それを見てオリエンタルランドで正社員になれるのではないかと淡い期待を持ち、低賃金なのに熱心に働くのだろう。これはオリエンタルランドだけではなく、非正規雇用者の多い企業ならば働くメカニズムである。

第4に、2007年のダンサー労災認定問題を受けて、ダンサーは正規雇用されたが、一部のダンサーだけが対象であった。なぜだろうか。それには次の推測が成り立つ。オリエンタルランドの役員か部長以上のクラスの人材が関連会社（ここではダンサーを派遣する下請け企



表 5 二労働組合の比較

労働組合名	特徴	性質	団体交渉	組合員	役員
OFS (Oriental Land Friendship Union)	オリエンタルランドの公式労組	おとなしく従順な御用組合	情報無し。おそらく無い。	オリエンタルランド正社員	おそらく押しつけられた人、出世したい人
オリエンタルランドユニオン	非正規労働者達が結成した非公式労組	闘争的、非正規労働者の待遇改善を主張	申し込んだが拒否された。	オリエンタルランドで何らかの形で働く非正規労働者	自主的、自発的に結成、初期メンバー、活発に活動

業)に出向し、役員になっている。その人のお陰でその下請け企業が仕事を取ることができる。その権力または営業力ある人材の下請け企業の所属ダンサーがオリエンタルランドに正規雇用された、というストーリーである。またはオリエンタルランドの役員の子供が経営している下請け企業のダンサーをオリエンタルランドが正規雇用したというストーリーも考えられる。推測であるが、日本企業の多くはこのような仕組みになっている。それだけ成熟社会で仕事を取るのには難しい。既にどの職業も飽和している。供給過剰である。

第 5 に、オリエンタルランドの二つの労働組合を比較すると表 5 のようになる。オリエンタルランドの公式労組 OFS はオリエンタルランド正社員を対象とし、おとなしく従順な御用組合である。役員は押しつけられた人や出世したい人になるという日本企業の労組の特徴そのままと推測できる。オリエンタルランドの有価証券報告書では「特記事項無し」とあるので、団体交渉や春闘はほとんど行われていないと推測できる。一方のオリエンタルランド・ユニオンは非正規労働者達が自発的に結成した闘争する労組である。非正規労働者の正社員化や処遇改善を訴えている。

## 8. まとめ

本稿では、TDR の非正規雇用問題を考察した。

ディズニーランドの主役はミッキーとそのガールフレンド、ミニーに見えるが、偽装請負の疑いがあると報道された。華やかな世界ほど舞台裏は地味で過酷であろう。ウォルト・ディズニーはバックステージを隠すように指示してきた。従業員によるブラック性の暴露には、今頃草葉の陰で怒っているだろう。ウォルトは裏舞台の苦勞は絶対に見せない主義であった。

戦後日本の労働者は企業とともに繁栄を目指し、労働組合活動で労働者の権利を主張することがほとんど無く、企業に忠誠を誓う従業員であった。しかし 2010 年代以降、ブラック企業という言葉が生まれ、非正規労働

者が声を上げるようになってきつつある。

最後に、華やかなアメリカのディズニー家の現状について述べる。アメリカンドリームをつかんだウォルト・ディズニーは子供の代でも大富豪、いわゆるセレブである。ウォルト・ディズニーは兄ロイ・ディズニーと共同で経営していた。弟ウォルトが芸術的でクリエイティブな業務を、兄ロイ・ディズニーが法務、財務、経理、営業など企業経営を担当した。ウォルトは息子がいなかったため、兄ロイの息子ロイ・エドワード・ディズニー (Roy Edward Disney: 1930-2009 年) が跡を継いでディズニー社のトップマネジメントとなった。ロイ・エドワード・ディズニーは米フォーブスの「The 400 Richest Americans」(トップ 400 人の大富豪) の 2009 年版に 76 歳で、第 322 位、純資産 1.2 億ドル (約 120 億円)、職業「Walt Disney」と載っている。ロイ・エドワード・ディズニーは長期間ディズニー社の経営陣で大株主であった。しかしロイ・エドワード・ディズニーの死後、2012 年版のアメリカの大富豪リストに、ディズニー家は誰も掲載されていない。

ディズニー社の業績が上がるほど、大株主であるディズニー家が配当金で儲かる仕組みである。企業の創業者一族が多数の株式を所有している場合、配当金で巨額の収入を得られる。その時の業績によって株の配当金が大きく変動する。これが資本主義と株式会社の仕組みである。オリエンタルランドからディズニー社へのロイヤルティ (著作権使用料) は年間 271 億円である。

### 【引用・参考文献】

- 「週刊ダイヤモンド」2014 年 8 月 16 日号 39 頁  
 中島 恵 (2013) 『東京ディズニーリゾートの経営戦略』三恵社  
 中島 恵 (2014) 『ユニバーサル・スタジオの国際展開戦略』三恵社

### 【注】

- 1) AECOM HP 「WHAT WE DO」 「Economics」 2013 年 1 月 12 日 アクセス 14, <http://www.aecom.com/de>

- ployedfiles/Internet/Capabilities/Economics/\_documents/Theme%20Index%202011.pdf
- 2) AECOM HP「WHAT WE DO」 「Economics」 2013年1月12日アクセス [http://www.aecom.com/deployed-files/Internet/Capabilities/Economics/\\_documents/Theme%20Index%202011.pdf](http://www.aecom.com/deployed-files/Internet/Capabilities/Economics/_documents/Theme%20Index%202011.pdf)
  - 3) TEA「2014 Theme Index」 2016年3月28日アクセス [http://www.teaconnect.org/images/files/TEA\\_103\\_49736\\_150603.pdf](http://www.teaconnect.org/images/files/TEA_103_49736_150603.pdf)
  - 4) オリエンタルランド HP「会社概要」 2016年4月22日アクセス <http://www.olc.co.jp/company/profile/>
  - 5) 株式会社オリエンタルランド有価証券報告書第54期(平成25年4月1日から平成26年3月31日) 2016年4月20日アクセス <http://www.olc.co.jp/ir/pdf/y2014-04.pdf>
  - 6) オリエンタルランド HP「価格改定について」 2016年3月28日アクセス <http://www.tokyodisneyresort.jp/manage/info/ticket/160208/>
  - 7) オリエンタルランド HP「パークチケット」 2016年3月28日アクセス <http://www.tokyodisneyresort.jp/ticket/>
  - 8) オリエンタルランド HP「ゲストプロフィール」 2016年3月28日アクセス <http://www.olc.co.jp/tdr/guest/profile.html>
  - 9) オリエンタルランド HP「1. 新しい発見と感動が常に生まれる場所」 2016年3月28日アクセス <http://www.olc.co.jp/ir/feature/report/1.html>
  - 10) オリエンタルランド HP「東京ディズニーリゾートの成長の軌跡」 2016年3月28日アクセス [http://www.olc.co.jp/ir/pdf/annual/2014/annual\\_03.pdf](http://www.olc.co.jp/ir/pdf/annual/2014/annual_03.pdf)
  - 11) 2000年8月20日 朝日新聞 朝刊 面名:2社会38頁「1600人が年金加入漏れ 東京ディズニーランドのバイト」
  - 12) Livedoor NEWS「ディズニーに再燃する過酷な労働(2014年6月22日)」 2016年4月26日 アクセス <http://news.livedoor.com/article/detail/8964661/>
  - 13) Business Journal「ディズニーリゾート、突然の解雇めぐり従業員が会社を告発、偽装請負と劣悪環境の疑い(2014年5月22日)」 2016年4月20日アクセス [http://biz-journal.jp/2014/05/post\\_4918.html](http://biz-journal.jp/2014/05/post_4918.html)
  - 14) livedoor NEWS「ディズニーに再燃する過酷な労働(2014年6月22日)」 2016年4月26日 アクセス <http://news.livedoor.com/article/detail/8964661/>
  - 15) オリエンタルランドユニオン公式 Twitter 2016年4月21日アクセス <http://park22.wakwak.com/~nanohana/orientalland/orientalland.html>
  - 16) 株式会社オリエンタルランド有価証券報告書第54期(平成25年4月1日から平成26年3月31日) 2016年4月20日アクセス <http://www.olc.co.jp/ir/pdf/y2014-04.pdf>
  - 17) 2016年度東京ディズニーリゾートエンターテイナーオーディション開催 2016年4月21日アクセス <http://entertainer.olc.co.jp/>